

# 理想の父親



土曜日の各駅停車

浩一を妊ったと伝えてから仕事人間の夫が大変身。

会社の付き合いは一切絶って毎日定時帰宅。家事を（不器用ながら）肩代わりしてくれて妊婦の私を大事にしてくれた。

出産にも当然立ち会ってくれたし年休をフル消化して育児も二人で協力。こんなに変わるなんて予想もつかなかった。

こうした夫のあまりの変身ぶりに

「会社はいいの？」と訊いたら

「いいんだよ。会社は生活のため、生活は浩一のため」と言う。かつては

「こんな時代に子供を作るなんて罪悪だ」と公言していたのに

「どうしたの？」

「考えが変わったんだ。こんな時代を生き抜ける人間に浩一をしなくっちゃ」と言う。

また、勉強も半端じゃなかった。妊婦の健康本に始まり胎教、出産関連、育児本、児童心理学、教育学、果ては音楽教育、体育学まで。

要するに人間の始まりから最後に到るまでの本を読み尽くしてはノートをPCに取っていた。

そして育児、教育及び家事の実践。私はエネルギッシュな夫に感嘆、感動した。

こうした夫の下で浩一は育っていった。

夫の浩一に対する愛は溺愛ではなくて突き放すところは突き放し、自立を促すものだった。

難しい反抗期、思春期も人生の先輩としての夫の的確な導きで無事、乗り越えた。

こういうのは矢張り男親だねえ。ひたすら感謝の私だった。

こうして順調に浩一は育ち、小中高と学年のトップを走り続けてストレートで東大法学部に入学した。将来は官僚を目指すという。

「あいつ、世の中を引っ張る男になるよ。理も情も噛み分けてバランスのとれた仕事ができる。俺なんかより相当上等だ」

「いいえ、あなたは浩一をここまで育てるとい立派な仕事をなさったわ」

私たちは幸福だった。

ところが、幸福だった私たちに突然の不幸。

夫が仕事で乗っていたタクシーが事故に遭い、夫はそのまま帰らぬ人になってしまった。

子育てに懸命だった夫、これから自分の人生を楽しもうという時だった。深い喪失感と悲しみで私の心は一杯だった。

何年か経ってようやく少しずつ立ち直った私が遺品を整理していたら、出て来たのはパイプカット手術の同意書コピー、日付は結婚した直後。

愕然。夫は自分の子供ではないと知っていたのだ。

どうして手術のことを言わないんだよ お、そんな手術、勝手にするんだよお、私は混乱して泣き続けた。夫婦ってなんなんだ。どうしてこんなコピー残したんだよお。

そういえば一度「話したいことがある」とか言ってたなあ。有耶無耶になってしまったけどこの事だったのかしら。

私にも夫のじゃない種を妊った引け目があるし

(でも、あの頃は仕事人間で全然かまってくれなかったんだよ。たった一度だけだったのよ)。

突き詰めてもしようがない。

でも、どうして黙ってパイプカットしたのか、その記録を私の眼に触れるように残したのか詮索したいことはあるけれど、とにかく彼が理想の父親だったことは間違いない。

だからずっと私を愛し続けてくれたと思うことにする。

全ては愛ゆえの結果なのよ。

私も彼を本気で愛したのだから。

## 理想の父親

<http://p.booklog.jp/book/57271>

著者：土曜日の各駅停車略して土曜日

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/doyoubidayo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/57271>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/57271>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ